

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(2ユニット／1階ユニット)

事業所番号	2793800109		
法人名	社会福祉法人 ふくふく会		
事業所名	グループホームみやびのもり		
所在地	大阪府羽曳野市西浦3丁目3番23号(1階)		
自己評価作成日	令和4年10月20日	評価結果市町村受理日	令和4年12月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階
訪問調査日	令和4年11月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>【グループホーム】 生活の場であることを踏まえ、食事作り、洗濯、掃除などの家事活動を基本とし、外出やレクリエーション、クラブ活動などの楽しみを持てる活動を取り入れたケアを行っています。 また、季節行事を取り入れた活動に取り組んでいます。</p> <p>【ユニット】 近隣の散歩で少しでも季節を感じていただきながら、楽しみのある生活が出来るよう、ケアや活動に取り組んでいます。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所理念は、「スタッフと入居者が、共に日常生活を助け合い一人一人が地域の一員として自己発揮できる暮らしを支えています。」と職員全員で考えて作っている。その理念を各ユニットのフロアや事務所・休憩室等にも掲示し全員が共有して実践に繋げている。来客用トイレにも掲示し周知徹底を図っている。 利用者の要介護度は、介護度2が約半数と非常に元気で明るく、笑いで満ち溢れている。エレベーターは勿論のこと、出入り口も施錠されていない。自由に出入りが出来る。玄関わきのプランターに植えられた草花を職員と利用者が育てている。防災に対する心構えや知識は日々、1週目は火災時の4つの対処2週目は避難3原則と週ごとに課題を変えて朝礼で唱和している。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果【2ユニット総合外部評価結果】

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	【事業所理念】 スタッフと入居者が共に日常生活を助け合い一人一人が地域の一員として自己発揮できる暮らしを支えています。 事務所や休憩室、各ユニットに掲示し実践に繋げている。	事業所開設時に、職員全員で考えて作った事業所理念を、各ユニットのフロアや事務所・休憩室等に掲示し、職員全員が共有して実践に繋げている。フロアミーティングでも常に話し合っている。家族等にも周知して頂く工夫として来客用のトイレにも掲示し、徹底を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	定期的に同じ店に買い物に行く。また、近隣の散歩など地域の中での暮らしを行っている。	まだまだコロナ禍の中で利用者と共に買い物は無理だが、職員は近隣の馴染みの商店へ出掛け購入し日常的に交流している。利用者も密は避けながら、週に2回ほどは事業所の周囲を散歩し出会う近隣の人々と挨拶を交わしている。小学校で、近隣の方々との防災訓練は予定している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症地域推進委員として会議に参加している。また、入居相談など施設に相談があった際は実経験を踏まえアドバイスをを行っている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で出た意見やアドバイスを正職会議などで報告し改善や取り組みに繋げる体制を整えている。	入居者・家族・民生委員・知見者・市役所担当職員・理事長他事業所職員等が参加して2ヶ月に1度、書面開催も含めて開催している。そこでは利用者の状況報告や活動報告・ヒヤリハット・事故報告等が行われ、改善方法や取り組み方についての意見が交わされている。	事業所は設立来10年ではあるが、住宅地が離れている所為か、近隣との付き合いが少し不足している。非常時の際どういう事で世話になるか分からない。地域の組織との関りを深め、より理解していただくためにも運営推進会議の一員として参加を促す努力を望む。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	不明な点等は電話で連絡を取ったり、運営推進会議などで相談している。必要な時は市役所窓口にて相談している。	市役所の高年介護課や地域包括支援課・福祉指導監査課の担当職員とは、都度訪問し窓口で指導を受けたり、運営推進会議に参加して貰い、ヒヤリハット事故報告書について助言や指導を受けたり、介護保険の改正事項の指導も受けている。指導内容は職員全員で共有するようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止マニュアルを作成し、各ユニットに設置している。また、勉強会や検討会も実施している。 施設開設時より玄関の開錠を基本とし、やむを得ず施錠する場合にも早期開錠に向けて取り組みを行っている。	身体拘束等の適正化のための指針を作成し3ヶ月に一度の委員会を開催している。委員会では議事録を作成し、職員全員に会議内容を確認、周知徹底を図っている。年2回身体拘束をしないケアの実践やスピーチロック等についての研修を行い、理解を図っている。日常的に玄関出入り口やエレベーターも施錠せず、自由に行き来出来る。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止マニュアルを作成し、各ユニットに設置している。また、勉強会や検討会も実施し虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	人権研修については全体の勉強会として開催し学ぶ機会を設けている。資料を閲覧できるようにし相談があった際に助言など出来るようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、十分な時間を取り説明し納得いただけているか質問や疑問を確認しながら進めている。契約後の制度改正時は文書を作成し説明同意を得ている。また、相談があったケースについては都度説明を行い理解、納得を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	普段より意見や要望があった際には、早期回答を心掛け、言って頂きやすい関係づくりに努めている。また、サービス計画書の説明時に家族様の意見や相談を聞いている。必要があれば、運営推進会議で報告や相談を行っている。	利用者とは日々の会話を通して、利用者家族とはコロナ禍以前は、運営推進会議や来訪時に意見要望を聞く機会を設けていた。現在は電話やライフレーターを通して、利用者の様子を伝え要望を聞き出している。排泄介助等においても、利用者の性格をよく見て介助して欲しいの家族の要望に対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営会議やリーダー会議、正職会議で意見を聞く機会を設けている。また、日常の勤務においても意見や提案が挙げれば検討し反映できるものは反映させている。	法人の運営会議があり、各ユニットのリーダー会議やフロア会議と段階をふんで職員の意見や提案の場が設けられている。利用者の危険防止のため、玄関に人の出入りに反応するチャイムを付けて欲しいの要望に即座に対応した例がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	隔月で運営会議を開催し各事業所、ユニットの状況や実績把握に努めている。また、日頃から職員との会話の機会を設けやりがいなどを見出し、達成に向けて取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ユニットリーダーが中心となりOJTやOFF-JTを計画、実行している。 定期的に法人内研修を開催し参加を呼び掛けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム部会やグループホーム同士の計画作成者の集い、他事業所との事例検討会、職員交流会など新型コロナウイルスの状況を注視しながら再開のタイミングを探している。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回の面談時や相談時に管理者やリーダーが、本人や家族より要望や不安なことを聞き取りした内容を施設内で情報共有しサービス計画書やサービス提供に活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回の面談時や相談時に家族より要望や不安なことを聞きサービス計画書やサービス提供に活かしている。入居時の環境の変化による負担を最小限に抑える為、家族と相談し連携を図っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談のケースに応じて他のサービスや自施設の空き情報等の提供、他のグループホームの紹介などを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフと入居者が共に助け合いながら日常生活を営む事を軸にして、入居者様が過ごし易い環境作りをしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に近況の報告を行っています。面会頻度の少ない家族様には、電話やメールにて近況を伝達しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で、交流を持つ事が困難になっている。	コロナ禍の中のため、ふれあい喫茶など人との触れ合いは非常に難しいが、週に2回ほど事業所の近辺を散歩した時に、近隣の方々との挨拶は交わしている。家族や友人との触れ合いを閉ざさないように、電話やハガキ等の支援にも努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	活動時は一つのテーブルにするなど、一緒に参加できる環境を作っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じ家族の相談や情報提供などの支援を行う。また、施設の行事への参加を呼びかける等、サービス利用終了後も家族様との関係を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴や、普段の発言や意向を示す言動を踏まえて考慮してその都度対応を変えるようにしている。聞き取り自体が困難な場合は、ご家族の意見も取り入れながら対応するようにしている。	一人一人の利用者とは、日々の関わりの中から暮らし方の希望を聞き出している。園芸が好きな利用者には玄関わきのプランターを世話してもらったり、料理が得意な人には行事レクで調理に関わる等、介護計画にも取り入れて活用している。困難な利用者には生活歴や家族の意見を参考にしながら、思いや暮らし方の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、ご家族に入居者の生活歴などの情報シートを記入してもらい、それを参考にしてケアに取り入れるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日中の申し送りやミーティング時に、状態等の申し送りをを行い、スタッフ間で情報共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のケアカンファレンス実施前に聞き取りアンケートを設けて現状を把握し、対応の変更を行なっている。	通常は月々ケアカンファレンスを行い、モニタリングでチェックをし、日々の支援経過を見ながら3ヶ月毎に介護計画を見直している。しかし変化が生じた時には、家族の承諾を得た上で臨機応変に見直しを行っている。職員には都度、アンケートで利用者の介護計画を進める中で課題を見出し、これからのケアプランについて、意見を求めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の中での変化や気づきなどは個別管理表やヒヤリハットに記入してもらい、情報共有を行なっている。内容によっては議題に上げ、対応の変更を行なっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	フロアで落ち着かれない様子見られた時は、職員と一緒に過ごせる環境を作り、散歩など環境を変える対応を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの訪問等が中止になっている為、施設内での楽しみの機会を作っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	契約時に協力医療機関の説明を行い本人、家族の同意、納得を得て選択して頂いている。本人や家族の要望、状況により以前からのかかりつけ医の往診対応も行っている。	従来からのかかりつけ医の2名以外は協力医の訪問診療(内科系)を受け、希望・必要に応じて歯科医の訪問診療を受けている。精神科受診の1名は状況説明を要するため職員対応を主としている。他の専科は看護師・医師の指示により受診支援を行っている。家族へは薬や診療内容の変更など必要に応じて連絡している。他に、2名が接骨院による往診を受けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師出勤時に必要な情報が伝わるように、申し送りを行っている。必要であれば主治医との連携などもとれる体制をとっている。月2回の定期往診前には看護師と伝達事項の確認を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入居者が入院した際には医療機関に情報を提供し定期的に家族から情報を収集している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者の状況変化時はご本人やご家族からの要望を早期に把握できるようにし、医師にも意向を伝達し情報共有を行っている。ターミナルケアに関して、勉強会などを通じて内容や指針を理解してもらえるようにしている。	入居時に急変時、終末期における対応についての確認書を得ている。生活を共にしてきた中での自然な形で、最後まで生きることに伴走していくことを深く認識してケアに当たりたいとしている。全員でエンゼルケアを行い、死後のカンファレンスでケアの見直しを行い、死に対する怖さとケアの後悔を乗り越えたケアの資質向上を目指している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故対応マニュアル、その他対応としてのガイドラインを基にして、緊急時対応シートをすぐ見れるところに置いている。応急手当や初期対応については研修機会や都度の説明機会を設けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施している。また、朝礼時に防災に関する文章の読み上げや実際に動く事で意識を継続できるよう取り組んでいる。非常時備蓄については、各ユニットで保管、管理を行っている。	6月に夜間想定火災避難自主訓練を行い、12月に昼間想定の実施を予定している。実施には各階で手順フローチャート・入居者誘導標を用い、実施後に課題・評価作業を行っている。8月に消防署要請の自主検査を実施し、月の5周年朝礼時には火災通報と消火器の使い方の演習を行い、法人本部にてBCP作成中である。	本部によるBCPに、当事業所の状況(地理的・構造的・利用者状態・職員勤務実態など)に沿ったBCP策定への取り組み、地震・風水害対応の避難訓練、インフラ停止想定生活体験実施を期待する。加えて、過年の訓練に参加した地元消防団への協力要請の続行を望む。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	丁寧語を基本として対応し、排泄に関わるケアに対して、誇りとプライバシーを重んじる働きかけを行なっている。接遇における対応はフロア全体でミーティング等を通じて接遇に対する意識向上を図っている。	職員都合の声掛けではなく、相手の気持ちを察し、気持ちを動かせる言葉は自ずと丁寧語となり、介護・介助の動作もぞんざいなものにはならないとして、常に意識強化に努めている。お互いの存在を受け止め合う関係づくりを大切にしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分でしたい事を決められる生活を重視しながら、選択困難な場合に関しても、可能な限り選択をしてもらいやすい環境づくりを行なっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	定着して実施できているものであれば、カレンダーに予定を記入し実施機会の確保に務めている。当日で希望があれば、人員配置を考慮して可能な限り実施できる工夫に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2か月に1回、訪問理美容を利用している。普段の整容は起床時に確認を怠らないようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事前後の家事活動として、一緒に取り組める事は一緒に行なうようにしている。食事作りの機会としては、入居者が出来る事を多く盛り込むメニューを考えている。	月・火・木・土曜の昼と夕食は系列の施設からのものを盛り付け、当所で作るご飯と汁物を加えて提供している。水・金・日曜は各階での献立で調理したものとしている。習慣とする季節料理や行事食にも取り組んでいる。量・塩分・形態に留意し、口腔衛生管理体制算定とオシャベリはむせを防ぎ美味しく食べることに繋がるとしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は全入居者対象で摂取量を把握できるように個別管理表に毎食分チェック記入を行なっている。水分についても全入居者対象で個人での必要摂取量の記載とともに、摂取量を個別管理表に記入している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	月1回、歯科衛生士訪問からの口腔内情報やアドバイスを基に、毎食後の口腔ケア介助に活かせるようにしている。夜間、義歯はポリドントにて洗浄・消毒を行なっている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	全入居者対象に、排泄チェックを行ない、それぞれの排泄リズムやトイレ間隔の把握に努めて対応につなげている。トイレでの排泄を重要視している。	トイレでの排泄は自尊心に関わる重要事項と認識し、ケアプランを基本に本人次第の支援に努めるとしている。放尿癖の人は居ないが、本人も職員も便失禁に気づかない場合の対応について工夫検討中である。夜間は、清潔重視か、起こすことでの日中の傾眠か、で対応が分かれている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎食時の汁物に豊富に野菜を取り入れる事を意識して実施している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日入りたい、午後に入りたい、1番風呂がいいなどの要望に合わせた対応を心がけている。	職員体制により、全ての要望に応えられない状況だが、午前・午後への対応は可能とし、足し湯での浴槽に浸かる人、二人介助の人、シャワー浴の人と、夫々にゆっくりオシャベリを楽しむ場としての支援がある。近隣で調達のゆず湯、入浴剤での楽しみもある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活リズムや入眠時間を考慮して対応を続けている。日中の休息は必要に応じて行なうが、夜間睡眠に影響が過度に出ないように配慮をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理表と薬説明書を用意いつでも確認できる様にしている。毎回服用前に薬の再確認をしてもらっている。薬の副作用に関しては、服用開始前から申し送り継続して様子観察をもらえるように伝達している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者それぞれの情報に応じた活動、嗜好品を出す機会を設けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	午前・午後の空き時間を可能な限り外出への機会作りにあてる事を重視して取り組んでいる。	観梅、観桜、河川敷散策、道の駅での買い物などの外出は自粛が続いている。極度の重度者が居ないことで、車イス使用ながらほぼ全員が週1~2回の極近場での散歩を楽しんでいる。月1~2回のドライブとマクドのドライブスルーで外出感を補っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現状として、自身で金銭を持って自己管理されている入居者はいない。買い物等の金銭使用後の残金の確認を一緒に行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人宛に届いた手紙等は手渡している。電話をされる事はないが、年賀状を書いて頂き家族様に送付している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ユニット内が季節感のある雰囲気になるように季節に応じた飾りを取り付けるようにしている。日中はカーテンなどを利用して遮光できるように配慮している。	時間経過、季節感、清潔、安全を主眼として、1・2階と趣の差はあるが、ボランティア寄贈の折り紙で壁面に季節感を、目線の高さでの数ヶ所の柱時計が暮らしの場を感じさせている。1階玄関横吹き抜けの風除室と、2階廊下突き当りのテーブルと数脚の椅子が、木造づくりの心地よく過ごせるスペースとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルの他にソファを設置し、一人でもくつろいで過ごせる環境があるようにしている。フロア内での座席は固定ではなく、自由に座れるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使い慣れたタンスや仏壇など自身の私物を居室に置いてもらえるようにしている。	基準よりゆとりのある居室はベッドが既設され、思い思いの筆筒や机に椅子、収納ケースが並び、思い出の品々で彩られ、窓からの眺望が良く、その人らしい暮らしの場が整えられている。クローゼットは廊下側に設置され、各々の入口にある表札や飾りが私の居場所を示している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下など、至る所の端にスロープを設置し、安全な移動がしやすいようになっている。トイレには名札を貼ってわかりやすいようにしている。時計は低めの位置に3ヶ所設置している。		